

## 3月23日、中部大学学位記授与式

みなさん、こんにちは。

3月23日、2019年度 中部大学・中部大学大学院学位記授与式でした。学部2,427人、大学院122人(内博士11人)が卒業し、社会や大学院へと活躍のステージを変えるため、中部大学を巣立って行きました。しかし、いつもと様子が違います。大学全体で行う式典(体育館に集まる)は中止とし、学位記の受け渡しを学科・研究科ごとに講義室等に分かれて行いました。学位記授与への出席は強制ではありませんので、欠席した卒業生もいるはずですが、この理由は、みなさんもご承知の通り、新型コロナウイルス(COVID-19)との闘いによるものです。

中部大学だけでなく、日本中の大学だけでなく学校が卒業式を中止しているのかを考えたいと思います。

2月27日、第15回新型コロナウイルス感染症対策本部において、安倍晋三総理が「全国全ての小学校、中学校、高等学校、特別支援学校について、来週3月2日から春休みまで臨時休業を行うよう要請」(首相官邸HPより)されました。さらに、「多数の人が集まる全国的なスポーツ、文化イベントなどについては大規模な感染リスクがあることを勘案し、今後2週間は中止、延期、または規模縮小などの対応を要請する」と表明しました。その中でも、以下の情報は強烈な印象を受けました。第92回選抜高校野球大会の臨時運営委員会(委員長＝八田英二・日本高校野球連盟会長)が11日、新型コロナウイルスの感染拡大を踏まえて大会開催の可否を検討した結果、中止を決定したのです。メディアでは選手や関係者が「今後の人生や夏に向け、これをプラスにしていきたい」と話している姿がありました。安全最優先であり、苦渋の決断だと日本高等学校野球連盟と毎日新聞社が連名で報告しています。



新型コロナウイルスはまだ未知のウイルスです。私はコロナウイルスが専門ではありませんが、感染症や予防医学、ウイルス学を専門とする医学研究者です。公表された論文を読み、私なりに解釈した情報をお伝えしたいと思います。

ヒトの健康を害するコロナウイルスはこれまでに6種類分かっており、2種類が中東呼吸器症候群(MERS)と重症急性呼吸器症候群(SARS)で、それ以外の4種類は一般の風邪の原因の10～15%(流行率は35%)を占めます。現在、世界的に流行しているCOVID-19は新たに判明した7つ目のウイルスと考えることができます。ウイルス感染した人のうちどれくらいの割合で肺炎に移行するのか、無症状の保菌者がどれくらいいるのか、重症化する割合は高いのか、2度感染するのか等々、不明点が多いです。その中で、新型コロナウイルスでは、集団感染(クラスターと呼ばれる)が問題となっています。これまで集団感染が確認された場に共通するのは、(1)換気の悪い密閉空間であった、(2)多くの人が密集していた、(3)近距離での会話や発声が行われたという3つの条件が同時に重なった場です。3つの密が重なり集団感染に繋がる可能性があります。このような場所を作らない、行かないことが、感染の急速感染を抑えるために重要です。中国CDCより発表された44672人の新型コロナウイルス感染症患者のデータを分析すると、新型コロナウイルス感染症で重症化しやすいのは高齢者と持病のある方です。30代くらいまでは亡くなる人はほとんどいませんが、40代以降から徐々に致死率が高くなり、80歳以上では14.8%という非常に高い致死率となっています。別の解釈をすると、新型コロナウイルスに感染しても、多くの場合は症状が出ないようです。咳や発熱などの軽症で終わることが多く、そのため、多くの人は感染しても気づきません。米国医師会誌(JAMA)に掲載された報告によると、無症候の感染者(20歳の女性)から、家族5名(42-56歳)に感染したとのことです。この論文は、無症状の若者から多くの家族に感染したことを示しています。

このことから、今の日本において、感染に気付いていない若者からの感染をいかに防ぐかが重要です。先に述べましたが、学校の一斉休校、大規模イベントの自粛、さらには、高校野球の中止につながるわけです。私は、高校野球を中止したのは、選手の安全を考えたものもちろんですが、選手の周囲の家族をはじめとする高齢者を守ることにあるのだと理解しました。18歳に満たない高校生が、感染者が急増して医療や社会が破綻するのを防ぐために、自らの夢と希望を犠牲にしてくれたのだと思います。大学生の皆さん、ここは国難とも言える状況に、力を合わせて対応しなければならないときですよ。

3月19日に新型コロナウイルス感染症対策専門家会議が開かれ、「現状は何とか持ちこたえており、拡大防止の取り組み強化が必要」とする一方、感染が確認されていない地域では学校活動や屋外スポーツなどの再開も奨励しました。政府は、臨時休校などの自粛要請の一部を解除する方針だとの状況分析と提言が出されています。これにより、学校の再会が始まります。中部大学に集う教職員が賢い対応をし、判断する必要があるようです。

最後に、卒業の話させてください。卒業式は”新しい人生の出発式”だと思います。先にも述べましたが、今年は方法を変えて、ゼミ生と話す時間を持ちました。もちろん、換気は十分にするなど、3つの密が重ならないようにしました。ゼミ生たちは自らの4年間を一言で表

してくれましたが、自分の言葉でなんとか表現しようとしている姿にジーンとききました。それと同時に、私自身の大学卒業時を思い出しました。誇れる大学生活ではありませんが、刺激を求めていたのでしょう。不真面目な、なんかやってやろうと言う(少し乱れた)気持ちがありました。でも、そんな気持ちがあったはずなのに、社会に出ると言う真面目な気持ち(重圧や責任)もあり、ジレンマを感じていたのだと思います。今回、ゼミ生話を聞き、その時には感じる事が無かった“難しい問題に対する解答”がほんの少しですが、感じる事ができたのかもしれませんが。逆に、いまでもその解答が明確に出ていないのだと認識させられました。いつまでたっても、この解答は見つからないのかもしれませんが。だからこそ、毎日を大切に、この解答を突き詰めて行きたいと思いました。そして、ゼミ生のおかげで、大学教員という仕事がますます好きになりました。ありがとう。頂いたネクタイ、大事にします！

卒業を迎えたみなさん、充実した人生を送られることを心より期待しています。お元気で・・・。

コモンズセンター長 伊藤守弘

